

またまた しつこく PTA!

《自己紹介から》

- 大学で学校選択制について研究していますが、特に松戸の事例が今の新自由主義的な教育改革の流れの中でかなり典型的な極端なやり方をしていると思ひまして、現場ではどのように受け取られているのかに興味があって、参加しています。
- 昨年から学年委員として初めてPTA活動に関わりました。今年は校外活動委員をしています。既に出来上がっているPTAに乗っかっていけば私たちの活動はスムーズに行くのかと思ひていましたが、先生や保護者の方たちと話をしていく中で、そういう場所ではなかったと気づきました。学校や本部役員にお任せではなく、自分たちが考えてやっていかないと、何事も進んでいかないと思ひました。
- いろんな学校で非常勤講師をしてきました。今もしています。東京の学校に行っていた時に最初に思ひたのは、ほとんどの人が子どもに私立を受験させている現状の中で、公立学校が荒れ始めているということです。公立学校というのは、自分たちが税金を払っている自分たちの学校、市民の学校と思ひていましたから、私立学校に行かせて自分の子どもは助かったという発想はいやだなあと。大変だけどここで何とかしていくというのが大人の務めだと思ひていました。それで、受験のない茨城県へ引っ越ししました。でも学校の中、やる気もなく。全国学力テストが始まる時に、地域の人たちにも知ってほしいと思ひ、PTA総会でもその問題について発言しました。PTAの本部役員にその発言を阻止され、自由に発言できない場だと実感しました。それで民主的にものが言える、話ができる学校を目指す必要があると考え、委員に立候補しました。私の話に耳を傾けて、一緒にやろうという人たちが少なからずいて、その状況が学校にとっても親にとっても無視できない事態にはなっているので、確実に孤立はせずに仲間がいるという状態が展望だと思ひています。
- 忙しくて、いろんなことに疑問を感じながらすごしたけれど、今まで人にお任せで来た。でも、思ひているだけじゃダメ、まわりに人と語っているだけじゃダメと気づいた。PTAのあり方にも疑問を持って、PTAに対して手紙を書いたりしたのが始まり。一つ踏み出すと自分がわからないことが見えてきました。

懇談会でも、人と違ひた意見を言うことができなくて、
どう思ひているのかということ発言する人がいないとか…



- 「ゆきとどいた豊かな教育を求め松戸市民集会」実行委員会で、中学校で行われている職業体験というのが、今度は小学校でも行われるらしいということが話されました。小学校でも本当にそれが必要なのか、体験先を探さなければならない教師の負担が大きいか、いろいろ問題はありそうです。このような問題を保護者に知らせ一緒に考えていきたいけどどうしたらよいかと教師の方から投げかけられました。学力テストの問題も一緒に考えたい。「やはりPTAでそういう問題に取り組むべきでしょう。PTA

を通して保護者に呼びかければいいでしょう」と話したら、「それが大変なんですよ。PTAで学習会や講座などを開いても5人くらいの参加しかない。」そんなPTAでは、保護者に伝えようと思っても、伝えることができない。ふだんの懇談会でも、人と違った意見を言うことができなくて、どういう思いでいるのかということを発表する人がいないとか。話し合いにならない。先生のそんな発言を聞いて、どんなにPTAを民主的に話し合える場にしようと言っても、それ以前にまず出てきて話をしなければ、民主的も何も無い。今のPTAの厳しい状況がよくわかりました。でも口に出さなくても、親が悩んでいること、疑問に思っていることはあると思うんです。子どもにはのびのび育てほしいとか、いろいろな願いを持っていると思う。そういう願いをいったいどこに出しているのか、それとも出せていないのか。



- 幼児教育のときにできた母親同士のつながりが後々まで影響を及ぼすと感じます。小学校PTAの委員決めで同じ幼稚園出身者が固まって引き受ける。幼稚園の時のつながりは結束が強くて、親のお茶会が今でも続いている。その時につながりを作れなかった親は孤立していく。働いている人とか、転職してきた人とか。
- 委員会でも友だち同士で入ってくるのは確か。新たな仲間作りがむずかしい。悩みも固まった親同士の中で話して解決できるし…と言う。
- 校外活動委員会だから、子どもたちのためにいろいろ計画を立てて、やっていきたいと発言したんですね。それにあたっては、校外活動委員会はこういう活動をするところということを会員の皆さんにお知らせするお便りを学期ごとに出したいですねと話していたんですが、その原稿を作っていたら、「それはあなたが個人的に思っていることで、ここにいる全員が思っていることではないから、お便りを出すのはやめましょう」と言われてしまいました。今、実際に校外活動委員会が行っている活動は、地域の名簿作り、全会員で行う立哨当番（信号のところに立つ）や放課後パトロールの当番表作り。
- お便りに載せようとしたのは、その当番が気づいたことを書いたノートの内容。地域ごとに気づいたことをせっかく書いても書きっぱなしになっていた。あたりまえの事ばかりなのに。要するに面倒なんです。子どもためにと口では言いながら、パトロールは仕方ないからやるけれど、それ以上はもう一歩前には面倒くさくて進めない。PTAの運営委員会でも、「PTAは子どものためにやるんです」と毎回言うんですが、皆いやな顔します。「楽しければいいじゃない」という感じです。
- 私の子どもが通っていた保育園は、「今、子どもの置かれている環境は教育的じゃないよ」と先生から言われたし、「だから親が努力しなくちゃダメ。一緒にやろうね」といつも言われていた。だから仕事しながら皆手足を出していた。「人間を育てるんだから大変なのはあたりまえ」と思っていた。親が苦労しないで済む楽な保育園もあって、そういう方が親に人気ですが、「何で親が苦労しなくちゃいけないの？」という親を育ててしまう。
- 子育ては、親が人間として育つチャンスなのに。子どもを通して違う角度から社会との関わりを考えるチャンス。そのチャンスを放棄してしまっている。
- 学校に預けっぱなしの親が多くて、何かあると文句だけは言う。教育や子育てを語り合える場であるPTAがせっかくあるのに、活用できていない。
- 委員会でも決まった作業だけやって、早く帰りたいと皆思っている。でもそこが話し合

いの場所だと思うから、あえて子どもの問題を話題に出した。委員会もきちんと機能していない。単なる作業をする場としかとらえていない。

- 防犯ということで、市も県も、やれ「110番の家」だとか、やれ「子どもを守る母の会」だとか、そんな団体をいくつも作って、そこにPTAが自動的に顔を出さなくてはいいなくしている。それでいて危険箇所をまとめるという活動にはのってこない。「危ない」という宣伝だけが行き届いていて、実際に子どものことを考えようとはしていない。
- 防犯カメラつけたり、放送流したりしたって、何かあっても子どもを誰も助けない。地域にいろんな大人が行き来して、気がつくということを投げかけたほうがいいと思うけど。大人としての役割を果たしていない。
- 犯罪から子どもを守るという視点でしか、子どもの安全を考えていない。交通事故や遊具などによる事故についてはあまり注意を払っていない。
- 自分たちの目で、頭で、何が危ないのかと考えていくことなく、危ないという情報だけを受け取るだけ。



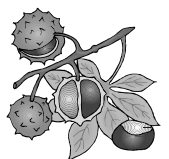
学校は正義の通るところ

- よく考えたらおかしいことなのに、おかしいと思っても誰も指摘しない。正しいことを正しいといえない環境は何なのか？ なぜ皆何も言わないのだろう。黙っていたら何も変わらない。事なかれ主義の人が多くて、今の生活が問題なくいっているんだったら、それでいいじゃないと言う人が多い。
- 実現しても実現しなくても、自分の考えていることを話す場所がPTA。いろんな視点の意見を聞いて、狭い世間で生きている親が社会的に広がる場。言わなければ何も変わらないし、変わらなくても人の気持ちを少し動かすことができるし、状況は変わる。
- 子どもに黙っていない親の姿を見せたい。子どもが成長していくときに、成功しても失敗しても、どうあるべきかを見せておきたい。
- 私が最初に教員になった時に、勤務先の先生が「学校は正義の通るところだ」とおっしゃったんですね。じゃないと、世の中に出た時に通じないことがいっぱいあるから、判断基準をつくるのが学校。だから正義を守らなければならないと。学校の中でおかしいことがあったらその先生と一緒にずっと闘ってきた。勝つことはありませんでしたが、それは私にとってはとても大事なこと。間違っているとわかっていても平気です先生たちもたくさんいますが、今も「学校は正義の通るところ」と思っていますし、親の立場であってもそれを言っていかなければいけないと思っています。
- 「正義」という言葉はいろいろな受け止め方をされるかもしれない。ブッシュも「正義」という言葉を使って戦争を始めたし。他の表現を使えば「人間の存在を大事にする」ということだと思います。
- 以前、松P研で山田由紀子さんに子どもの権利条約についてお話をしていただいた時に、「基本的人権というのは多数決で決めることではない。賛成する人がいようがいまいが、誰にとっても侵してはならない、動かすことのできない権利だ」と話されたことが忘れられません。誰がどう言おうと物事の本質は動かすことができない。学校はそれが通る場所であればならない。学校でそれが通らなかつたら、社会でだって通るはずもない。

- 人権については論理的に守られるべきだと主張ができる、権利があると学ぶことが正義を学ぶことになると思います。自分がこれまでやってきた勉強の中で、正義というのは再分配の問題ですね。富の再分配とか、社会保障をどう充実させるかとか。自分は来年から就職しますから、雇用の問題はとても怖い。就職先はメーカーですから、特に今話題になっている製造業の日雇い派遣を実際使う側にならざるを得ないのか。自分自身非常に矛盾を感じています。政府が市場に従属して、企業の論理に絡めとられている。いろいろ規制緩和してきたのもその流れだと思う。そういう中で自分が製造業で働く。再分配の問題、日雇い派遣などの労働者の問題などが自分の問題として関わってくる。同時に自分も切られる側になる可能性もあるというプレッシャーもあり、これで全く安泰とは思えない。
- 終身雇用から変わってきて、とても不安感を掻き立てられるようになりましたね。
- 将来設計がやりづらいという状況はあります。求職活動をしてもし全然決まらない友人もいます。自分の周りでぽつぽつ結婚する友人も出てきたのですが、みんな公務員です。

親たちが抱えている生活の状況をPTAの中で、きちんと見ていかななくてはならない

- 小学校低学年の親の世代は20代後半～30代後半が多いと思うが、就職氷河期世代と重なりますね。所得が少ない家庭が多いのではないかな。経済的に厳しい状況で、母親も当然働かなくてはならないだろう。そういう家庭が多い中で、疲れきった親がいろいろなことを考えるゆとりもなく、生活に追われていけば楽しみだっていないでしょう。そういう親が子どもより自分が楽しみたいと言うのであれば、わからないでもない。経済的な困難を抱えている家庭では、家庭内暴力とか児童虐待とか、そういう困難も抱えている可能性が高い。貧困というのは再生産されているから、貧困な家庭で育った人たちが今新たな貧困な世帯を作っているだろう。そういう家庭でDVや児童虐待が起きる割合は少なくない。そのような問題を解決しようと思ったら、貧困という問題にも踏み込まなくてはいけない。湯浅誠さんの「反貧困」にも、そういうことが書かれています。それと同時に子どもたちの貧困というのも問題。子どもが生まれながらにして貧困の中に放り込まれ、教育を受ける権利を保障されていない問題。今、PTAが一番考えないといけない問題だと思う。若い親たちが、子育てから自分が人間として成長することすら考える余裕がないかもしれない。親たちが抱えている生活の状況をPTAの中で、きちんと見ていかななくてはならない。
- 子どもの学びの場は今とても痩せられてしまっているのだから、気がついた人間が子どもの学びの場を豊かにすること一点に力を注ぐべきなのかなと思う。そのために学校にアプローチする。そのために地域を変える。何の見返りもなく、そういうことに力を注いでいる人間を見て、何かを感じ取る人が増えていく。それが可能性としてあるかな。物事を変えていくのは、信頼関係で人がつながることなのではないかなと感じている。
- 違う意見を出し合って議論してこそ、よりよいものが出来上がっていくという体験が今の子どもたちには必要。
- 授業の場で具体的な実践を通して、人の意見を尊重したり、議論をしたり



しないと身についていかない。やはり授業が大事。

- 貧しくたっていいし、所得を増やすばかりが人間の生き方ではない。競争原理に乗っからない生き方を探るべきだと思う。でも、今の貧困の問題は人間としての生存権を脅かされるまでの問題になっているから、それは解決しなければならない。それはきちっとした社会のセーフティネットがないがために生じている。どの網にも引っかからずに滑り落ちていく人が少なからず存在する。

学校選択制で学校を選んだのだから、そこにPTAがあれば加入するのは義務？

- 年度初めに、PTA委員の意思確認シートが配られます。今年の意味確認シートは、～委員をやるという選択肢しか用意されていなかった。その上、「この意思確認シートを提出しない場合は、PTAの決定に従います」ということが書かれていました。そもそもPTAというのは自主的に加入するもの。役員・委員の選出も、任意なんだから、やりたい人がやるべき。「任意加入だから、強制はおかしい」ということから始まって、今PTA会長や教頭とメールでのやり取りをしています。その中で、相手に「学校選択制で学校を選んだのだから、そこにPTAがあれば加入するのは義務」と言われました。
- 今年連Pの学年学級委員会の研修は、全P研の味岡さんに講師をしてもらいました。その中で、「100%会員はおかしい。PTAは任意加入の団体なのだから、私は加入しないという人が25%くらいいてもおかしくはない。なぜ加入しないのだろうと、そこから見えてくるものがある。もしかしたらPTAのあり方がおかしいのではないかと気がつくこともあるかもしれない」と話されました。
- 今年はPTA会費を納めるのをやめました。そうしたら、PTA本部役員に「会費を納めていないから、PTAが資金的に援助している学校行事（～小祭とか、学年の交流会とかデイキャンプとか）にお宅のお子さんが参加できない」と言われました。もし、会費を還元するようなイベントをするのであれば、平日に学校でやるのはおかしいと思う。学校でやっているからには、学校教育に必要と思って行う学校行事だろうから、会費を払っているかどうかという問題ではないと思う。教頭に問い合わせたら、教頭も同意見だと回答しました。
- PTA主催の行事だって、会費を払ってないから参加を拒むというのはありえないことですね。PTA活動は子ども一人ひとりに会費を還元するものではなく、例えば親子リクレーションならばその活動を通して、親と子、先生との交流を深めるということを目的として行うものだから、一人ひとりの費用を割り出して自己負担させるものではない。私のPTAはとても保守的なところだったけれど、「学級費は子ども一人ひとりに品物を買って与えるような使い方はしないでほしい」と強く注意されました。
- PTA主催の観劇会だって、未就学児のきょうだいや、地域の人たちへの参加も呼びかけていましたよ。
- ミニバスケットのユニフォーム代を出してくれとか、パソコンのインク代を出してくれとか、どうしてそれをPTAが出さなくてはいけないのか。学校教育に必要なお金は本来教育予算の中から出すべきでしょう。



- 自治体の財政が逼迫してくると、教育予算をP T Aに肩代わりさせようという動きはますます強くなると思うので、そこはしっかりとチェックしていきたいですね。
- 父母負担している教材費も増えてきているのではないですか？
- 今度その金額も皆で持ち寄りましょう。
- 年度初めに年間計画としてその年の父母負担の明細を知らせる手紙が出されます。ドリルや副教材、生徒会費・児童会費など。中学校の生徒手帳やバッチも父母負担ですよ。年度末には決算報告も出ます。給食費やP T A会費と一緒に銀行引き落としになっているので見落としがちですが、自分たちがどれだけ負担しているのか、しっかりと把握していきたいですね。
- 負担するのがあたりまえと思って、親はお金を出してしまうけど、安易にお金を出してしまっているのか。
- 義務教育なのだから、できるだけ負担が少なくてすむように配慮すべき。

今のP T Aの役員選考方法に疑問を持っています

- 今のP T Aの役員選考方法に疑問を持っています。会員皆のP T Aと実感を持てる選考方法にしてほしいと昨年提案しましたが、「選考委員になる人もいないし、本部役員になるという人もいないので、本部役員が選考する。運営委員も手伝ってほしい」といいました。「それはおかしい。本部役員が本部役員の選考をしていたら、いつも同じ人になってしまうのではないか。内輪で決めていたら、ますます会員の不信感が募るのではないか」と言いましたが、他の運営委員は「本部の人がやるといっているからそれでいいじゃない」という方向に流れていきそうです。とにかく役員選考の方法はいろいろあるから、いろんな例を学習して年度をまたいで考えていきましょうと投げかけています。
- うちも、いろいろ検討して選考方法を変えましたが、どんな制度をつくっても、P T Aとは何か、役員とは何かきちんとかわかっていない人が役員にならないと、なかなかP T Aが機能しない。皆で考えて制度をつくることも大事だが、つくった制度を支える人たちがいないとすぐに形骸化してしまう。